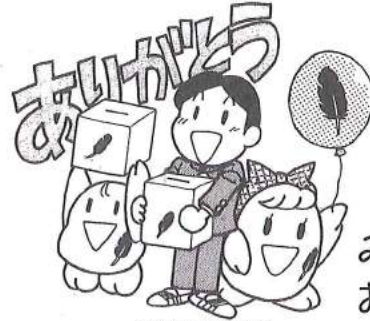




毎年、赤い羽根共同募金にご協力
いただきありがとうございます。



1月1日から
3月31日までは、
テーマ募金期間
です。

みなさまのご協力
をお願いいたします。

「共に支え合う未来を創る」助成事業

平成30年度 助成金交付決定団体一覧

- ・特定非営利活動法人一村
- ・えがお+for kids sports
- ・女性グループ・すいーぶ
- ・徳島県肢体不自由児者父母の会連合会
- ・特定非営利活動法人徳島県ボランティア協議会
- ・パープルシードあなん
- ・社会福祉法人白寿会グループホーム御所 (7団体)

本会では、昨年度より「共に支え合う未来を創る」助成事業を実施して、時代とともに変化する様々な福祉課題を解決し、共に支え合う未来を創るため、徳島県内の社会貢献活動団体や多様な機関が相互に連携し、課題解決に取り組む事業に必要な資金を助成しています。

この助成事業により、各地域で、「健全育成」「生活支援」「健康維持」「災害対策」「支え合う地域づくり」の課題解決に向けた取り組みがより一層広がることを期待しています。

次年度の助成団体の募集については、平成31年1月頃に御案内の予定ですので、本会ホームページなどで御確認ください。



平成30年度助成事業要件

- ・「健全育成」「生活支援」「健康維持」「災害対策」「支え合う地域づくり」のいずれかの、課題解決につながる事業であること
 - ・なお、「災害対策」については、災害時のボランティア・NPO活動にかかる人材育成支援事業とする
 - ・3団体以上で相互に連携し、実施する事業であること
 - ・次年度以降の活動につながる事業であること 等
- <助成額> 1申請につき、上限20万円



Ripple リプルとは、波紋のことです。

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分金により発行されています。

とくしま
福祉広報

196号
december.2018



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内
tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250
e-mail: info@e-fukushi.jp http://e-fukushi.ict-tokushima.jp/



ボランティア・
NPOの情報紙
45号 december.2018

とくしま県民活動プラザ

770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地
沖洲マリナーミナルビル1F
tel: 088-664-8211 fax: 088-664-5345
e-mail: info@plaza-tokushima.com
http://www.plaza-tokushima.com
http://www.tokuv.jp



マスコットキャラクター プラザ

NPO法人 竹林再生会議

「NPO法人 竹林再生会議」は、阿南の資源である竹を活用したものづくりを通して、地域の人々の暮らしを豊かにし、地域の活性化に取り組んでいる団体です。代表理事の長池さんの「竹藪は宝の山」、「竹材には無限の可能性がある」という言葉に魅了され、取材しました。活動の概要をご紹介します。



星形に組まれた「たけドーム」(夢ホールにて)



薬膳料理に最適な
穂先たけのこ

高校生と共同開発した
ぼてっとライト&ぶるっとライト

竹パウダーで汚物を分解する
バイオトイレ「ぶりフリー」

竹から生まれた竹和紙

竹パウダーは堆肥
としても効果あり

特定非営利活動法人
竹林再生会議

セカンドステージはたけのこ屋

ながいけ ともしげ
代表理事 長池 奉成

たけのこ産地の復活をめざして

平成20年徳島県地域めぐり研修を受講したのがきっかけで、ペンをはセバに持ち替え、新規就農を「たけのこ屋」としてスタートしました。

日本各地のたけのこ産地や地元の先輩たちに指導を仰ぎ、親竹の適正管理の普及や放置竹林をたけのこが生産できる状態に回復させるこれまでの試みを通じて「親竹を適正に管理することで、より市場価値の高いたけのこを、高齢者がより長い期間にわたって生産を継続できるようになる」「放置竹林の再生は適切な手順を踏まえて実施すれば十分可能であり、翌年から収穫可能なたけのこ生産林として再生できる」と確信を持つに至り、平成26年に仲間とNPO法人竹林再生会議を設立致しました。

多面的利用をめざして

5~6月の大きく伸びたたけのこの先端を水煮にし、ペースト状にして、食材にしています。これは、地域の障がい者作業所のドル箱になりました。

根元の部分は竹の和紙にしています。竹の和紙を使って、阿南支援学校では、カレンダーづくりを、阿南工業高校では、卒業証書を作っています。

秋の間伐竹はパウダーにしています。阿南支援学校では、給食残渣を処理し堆肥づくりをしています。そして、学校菜園に使用します。また、阿南工業高校は、これで災害時快適トイレを作りました。

(平成29年度高校生技術アイデアコンテスト全国一位)

後継者育成に向けて

林野庁補助事業として、森林環境教育を阿南支援学校と阿南工業高校で週に半日、出前授業を行っております。授業内容は、竹の伐採、パウダーづくり、竹ドーム制作、竹和紙などです。阿南工業高校は、一連の活動が評価され「平成30年度第13回環境省3R推進事業」大会において環境大臣賞を頂きました。



竹を活用したものづくり~作業所の設立を!

かとう まゆみ
事務局長 加藤 眞由美さん

理事長との出会いは、以前、働いていた作業所に、たけのこをいただいていたことがきっかけです。「竹=たけのことといった今までの既成概念ではいけない。発想の転換を図り、放置竹林を人の暮らしに役立つものに生まれ変えさせる。研究すれば、竹には無限の可能性がある」という理事長の思いに惚れて、活動に加わりました。



月に数回の阿南支援学校や阿南工業高校との交流のほか、事務所で竹紙の材料づくりや事務処理など365日活動しています。先を見通して物事を考える理事長に、目先のことしか考えていない私は「それでは、あ

かん」とよく怒られていますが、教えてもらうことはいっぱい感動とやりがいのある毎日です。

支援学校の生徒さんや高校生との関わりでは、まず、チェーンソーを掃除するところから始まります。バラして組み立てて、刃を研いで、木をチョンと切ってみます。シャットと入っていけば上手に研げている証拠。最初から教え、マスターしてから山へ入っていきます。草刈り機も同じ。分解・整備から始まり、チェーンソーとの違い、機械のことが必ず分かってから切る事を教えます。生徒さんとは、年間を通じて一緒に様々な活動をしていきます。

子どもたちは素直ですごくかわいいです。支援学校で学んだ生徒さんが、安心して働くことができる作業所をつくるのが私のかねてからの願いです。学校で修得した技術をいかして、竹を活用した産業に従事できるようにしたいと考えています。そのためにも、私たちは知恵をしぼり、竹林から生まれるものづくりに励んでいきたいと思っています。

竹林再生会議のみなさんと今回初めて組み立てた竹ドーム。竹の魅力を感じてもらいたいのはもちろん、僕たちのコンセプト「放置竹林をなくす」という想いを込めて、竹ドームをご覧になる方にメッセージを発信しています。阿南工業高校から阿南光高校にかわっても、僕たちがやってきたことや思いを後輩たちに受け継いでいてもらいたいし、放置竹林問題をたくさんの人に知ってもらえるよう、僕たち自身、卒業しても関わっていきたくて思っています。



阿南工業高校 機械科3年生 課題研究グループ「あこうバンブーミクス」のみなさん



阿南支援学校 ふじかわ しょうげん 藤川 彰厳さん

長池さんや加藤さんとの交流を通して、生徒は、地域の森林環境に関心を持つようになりました。普段何気なく見ている学校周辺の竹が、今日の作業で竹パウダーに変わり、環境にやさしい堆肥になったりバイオトイレに使われたりする。生徒たちは、竹を通して視野が少しづつ広がっていると思います。作業をしながら学ぶことは多いと思うので、このチャンスをいかしてほしいです。

阿南支援学校 やすとも さちこ 安友 祥子さん

騒がしい音がしたけど、竹を一瞬にして粉々にしてしまう粉碎機の威力はすごかったです。



高等部1年生 おかもと けいん 岡本 ケインさん



(取材：菊本佳孝 日下睦子)

特定非営利活動法人 竹林再生会議

事務局長 加藤 眞由美

当法人の活動に興味のある方、ご連絡お待ちしております。

住所：〒779-1630 阿南市橘町傍示120番5
電話：0884-34-3773 携帯電話：080-6285-0573



small is beautiful



NPO法人 郷の元気

代表理事 **澤田 俊明さん**

〒771-4501
徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北30番地
TEL・FAX: 0885-46-0676
メール: satonogenki@gmail.com
http://www.facebook.com/satonogenki

を取り、お話を伺ったそうです。その数なんと県内外で約150人。この時の出会いが後の澤田さんの骨格を作ることに繋がっていきました。

食欲に学びたいと思っていた時に出会ったのが、日本の建築評論家第1号の浜口隆一氏です。浜口氏からは、ドイツ生まれのイギリスの経済学者E・F・シューマッハの思想や、J・J・ギブソンの環境と人のかかわりの見方などを教わります。シューマッハの著書のタイトルにもなっている「スモール・イズ・ビューティフル」という考え方(人間の背丈に合わせた科学技術により人間が想像力を発揮でき、持続性のある自然対人間の関係を育むというもの。)に大いに影響を受けたそうです。

シューマッハの経済哲学等に感化された頃は、市町村が合併を控えた時期でもありました。行政機関がなくなっても、まちのことをいろいろ考える組織は必要だと思ひ、他分野の人と一緒に、問題解決やまちの未来について考えようと平成18年にNPO法人郷の元気を設立されました。景観が好きで、にほんの里100選に選ばれた八重地の柵田をデザインされた澤田さん、いつまでも現場にいて地域貢献したいという思いが自分の根底にはずっとあるんだとおっしゃいます。

そんな郷の元気にも課題はたくさんあります。その1つは、後継者が経済的に自立できていないこと。今年度は柵田のオーナー制度をもっと広め、彼らが自立できる環境づくりに取り組む予定だそうです。また、専門分野である合意形成についても力を入れたいとおっしゃる澤田さん。いろんなことに興味は尽きず、お休みもほとんどないようです。澤田さんをそこまで動かすものはいったい何なのでしょう。それは、関わった人の笑顔だとおっしゃいます。ゼロからのスタート、そして人と人が集まり、1つのものをつくりあげていくのが喜びだと答えてくださいました。

NPO法人郷の元気のみならず、(有)環境とまちづくり、一般社団法人かみかつ里山倶楽部等、たくさんの組織を作った澤田さんは、組織は違っても、関わっている人の「主体性」を大切に活動が続けたいとおっしゃいました。

澤田さんのお話は、まるで壮大な物語を聴いているようで、優しい佇まいと相まって何とも心地良い時間でした。

(取材:丸山 明美・向井 亜里紗)

NPO法人郷の元気は、環境省の「持続可能な開発目標(SDGs)」を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業に四国で唯一選ばれました。そこで今回は、その活動である「協働によるかみかつ茅葺き学校」を展開しておられる代表理事の澤田俊明さんに、お話を伺いました。温厚な笑顔の澤田さん。どんなお話をお聞きできるのか楽しみです。

愛媛県宇和島市ご出身の澤田さん、徳島大学に入学したところから徳島県とご縁ができました。大学卒業後、一旦大阪で就職されたのですが、再び縁あって徳島で就職されました。

郷の元気を設立する以前に、アーティストや建築家等、様々な分野の専門家の集まりである「徳島景観研究会」を立ち上げ、熱い議論を交わっていたそうです。

また、「この人は!」と感じた方には、1人ずつアポ

子どもたちのボランティア活動

「学校ボランティア部!紹介」

藍住東中学校 ボランティアA委員会
ボランティアB委員会

藍住東中学校には、A、B2つのボランティア委員会があり、主にA委員会では校外、B委員会では校内での活動を、合わせて約70人の生徒が協力して行っています。

A委員会では、町内の独居高齢者の文化祭への招待や校内での募金活動への協力の呼びかけや、世界の子供たちへのワクチンの送付と障がい者の社会参加の応援を目的としたエコキャップの収集を、B委員会では、校内清掃や草抜き・ゴミ拾い、「藍住町身体障がい者ふれあい大会」での参加者受付や賞品係など大会運営のお手伝いの活動をしています。

生徒たちは、「ペットボトルのキャップひとつでも人の命を救える、こんな活動をこれからも続けていきたい。」「人の役に立つことはとてもすばらしい。」「草むしりは人目につかないけど『きれいになっているね。』と言ってくれる人がいて、手伝ってくれることがうれしい。」「学校の周りがきれいだと、学校全体の『きれい。』につながる、隠れた努力があってこそ学校が美しくなりすばらしいことだと思う。」などの声があり、一生懸命に活動しています。



各クラスから持ち寄ったエコキャップの回収



校庭の草抜き

シリーズ この人から

子育て支援母子保健アドバイザー「繭の会」

会長 **田口 許江**

内閣府によると、18歳以下の子どもの自殺について分析したところ、夏休み明けの新学期が始まる時期に増える傾向にあると指摘しています。

この度、命の大切さを学ぶ事業として「なると赤ちゃん授業実行委員会」より依頼を受け、私と主任児童委員を兼ねている助産師の2名は鳴門市内の小学6年生を対象に講演させていただきました。内容は、「受精から誕生までの不思議」と「赤ちゃんの成長と発達」についての講義と、赤ちゃん人形を使っての抱き方やおむつ交換などの実習を行いました。

休憩をはさみ、会場を近くの公民館に移し、生後3ヶ月~10ヶ月の乳児とお母さん達との「触れ合い交流体験学習」を行いました。小学生は、こわごわ抱っこしたり話しかけたりする中で「やわらか〜い」とか「かわいい〜」を連発し、お母さん達とも笑顔で接することができました。そして、ボランティアの皆さんとともに、楽しい体験学習の時間を過ごす事ができました。

少子化の現在、こうした取り組みは必要と

思われます。命の大切さは、子どもの時から学ぶべきだと思っています。今回は、中学生を対象とした講演を依頼されています。小学生に対する授業とは、また違った形になるかと思いますが、今から楽しみにしています。



徳島文理大学人間生活学部児童学科非常勤講師・日本レクリエーション協会公認インストラクター・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者・保健師・助産師・看護師・とくしま学博士



NPO 活動に対する助成事業一覧

NPO・ボランティア団体の活動資金に対する県内の助成団体をご紹介します。なお、これ以外の助成金情報についても「とくしま県民活動プラザHP」助成金情報」に掲載しておりますのでご覧ください。

■文化部門助成金（公益財団法人阿波銀行学術・文化振興財団）

- ・募集時期：平成31年1月4日～3月29日
- ・助成金額：1件当たり50万円を上限
- ・お問い合わせ先：088-623-3131(総務課地域貢献事業担当)

■四国ろうきん社会貢献活動「助成金制度」(四国労働金庫)

- ・募集時期：毎年6月1日～7月31日
- ・助成金額：1団体20万円以内(四国内に所在する法人並びに団体に限る)
- ・お問い合わせ先：087-811-8004(経営統括部)

■地域社会における生涯学習に関する事業及び文化事業に対する支援(公益財団法人徳島銀行生涯学習振興財団)

- ・募集期間：上期募集/毎年4月1日～8月末日
下期募集/毎年10月1日～翌年2月末日
- ・助成金額：1団体50万円以内
- ・お問い合わせ先：088-623-3111(総務部)

■徳島新聞社会文化助成金(公益財団法人徳島新聞社会文化事業団)

- ・募集時期：平成31年1月10日～2月8日
- ・助成金額：1団体につき20万円以内
- ・お問い合わせ先：088-655-7364(澤田さん)

■ハートフルゆめ基金とくしま

- (公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク)
- ・募集時期：上期2月 下期8月の年2回
 - ・助成金額：募集期間と目標金額を設定し寄付を募る
 - ・お問い合わせ先：088-678-2130(新田さん)

■徳島県福祉基金助成事業(公益財団法人徳島県福祉基金)

- ・募集時期：2019年度事業 平成30年10月22日～12月21日(2019年度も同時期の予定)
- ・助成金額：1団体につき70万円以内
- ・お問い合わせ先：088-654-0294(事務局)

■地域社会の森林、河川等自然環境の保全活動への助成

- (一般財団法人日亜ふるさと振興財団)
- ・募集時期：毎年7～8月ごろ
 - ・助成金額：1件100万円以内
 - ・お問い合わせ先：0884-22-2311(松下さん)

■共同募金活用事業「テーマ募金」(社会福祉法人徳島県共同募金会)

- ・募集時期：毎年7月中旬ごろ(ホームページ等)
- ・助成金額：自ら目標金額を設定し寄付を募る
- ・募金運動期間：翌年1月1日～3月31日
- ・お問い合わせ先：088-652-0200(事務局)

■JTNPO助成事業(日本たばこ産業株式会社)

- ・募集時期：平成30年9月20日～10月31日(平成31年度も同時期の予定)
- ・助成金額：1件につき上限150万円
- ・お問い合わせ先：03-5572-4290(助成事業事務局)

■ゆめバンクとくしま助成事業

- (認定NPO法人とくしま県民活動プラザ)
- ・募集時期：平成30年5月1日～5月31日(平成31年度も同時期の予定)
 - ・助成金額：1団体につき上限5万円
 - ・お問い合わせ先：088-664-8211(ゆめバンク担当)



阿波 ZARU 事務局 さかい のりお
阪井 紀夫さん

一緒に登る仲間になる!

徳島市の阪井紀夫さんは、「阿波 ZARU」というグループで障がいがある人もない人も一緒に楽しめる交流型のクライミングの活動を行っています。阪井さん自身もクライミングを楽しみながら、色々なバックグラウンドを持つ人たちの交流の機会を提供されています。実際、阿波 ZARU には、障がいの有無や老若男女いろいろな方々が来られています。私には視覚障害のある大学時代からの友人がいます。その友人がクライミングをしているという話を聞きました。初めはどうやって見えない壁を登っていくのか想像が付きませんでした。徳島でもその活動が行われていると知り、私も阿波 ZARU に参加するようになりました。視覚障害のある方がクライミングをする際は、見える人が次のホールドの距離や方向、形等を伝えていくことで、課題を登っていくことができます。普段は接点がない人同士でも、クライミングを一緒にすれば自然な交流が生まれ、すぐに仲間になることができます。今後、ますます阿波 ZARU の輪が広がっていくことを願っています。



文・坂 華子

一生、いい歯と付き合うために。
「成人歯科健診を推進しています」

一般社団法人
徳島県歯科医師会
会長 森 秀司
徳島市北田宮 1-8-65 電話 088-631-3977

ホームページ



NPO 法人 牟岐キャリアサポート

■設立について

私たちが活動する牟岐町は、少子高齢化の進行に伴い、若者の数が減っています。

そんな町で4年前にサマースクール(Tokushima 英語村プロジェクト)が開催されました。そのスタッフだった大学生が、「サマースクール期間中にお世話になった町への恩返し」の気持ちから、教育支援やまちづくりに取り組む団体(ひとつむぎ)を設立しました。

しかし、学生は2、3年で入れ替わっていくため事業を続けていくには苦労が絶えません。町からは、ひとつむぎの教育支援での効果を認めていただいていたので、私たちが行政や学校の間に入って学生が対応しきれないところをカバーし、この活動を地域に根付かせていくことを目標に、2017年12月に「牟岐キャリアサポート」を設立しました。

■現在の主な活動

牟岐町で活動する学生団体の支援をしています。特に、教育支援について行政や地域の間に入っての日程調整や事業運営上のアドバイス、活動予算の相談などが主な仕事です。学生たちの活動には、色々な可能性があります。学生たちの主体性を尊重しながら、その可能性を引き出し、伸ばせるよう辛抱強く支援しています。

メインパートナーであるひとつむぎの活動が全国的に注目されるようになり、研究会等に招待される機会が増えました。徳島県教育委員会主催の「地方創生コンファレンス」など県内のイベントに加えて、福岡、宮崎など県外の研究会でも事例発表をしています。内閣府の「平成30年度版 子供・若者白書」にも活動内容が掲載されました。

■これからのビジョン

現在、牟岐町では若い人材が不足しています。しかし、定住人口を増やすのは簡単ではありません。私たちは、牟岐町の子どもたちや学生時代にこの町に関わった若者たちが、この町を離れた後も関係人口として関わり持ち続けて欲しいと思っています。「地方」に生まれたことが、教育面などでハンディキャップになってはならない、新しく豊かな学びに出会い、自分の良さを発見できる場所にしていきたいです。



代表理事 大西 浩正

とくしま県民活動プラザ

●プラザは、ボランティア・NPO・地域づくりなど、県民の皆さんの自主的、自立的活動を総合的に支援する拠点として平成14年にオープンしました。運営は(認定特非)とくしま県民活動プラザと(社福)徳島県社会福祉協議会・とくしまボランティア推進センターが協力して行っています。

●プラザ開館時間
開館時間：10:00～18:00
【研修室利用時間】
火曜日～土曜日：10:00～21:00
日・祝日：10:00～18:00
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始



●公共交通機関をご利用の場合●

- JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、
- ・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ
- ・「沖洲・南海フェリー前(マリンピア経由)」行きに乗車「マリンターミナル前」下車すぐ

編集後記

今年は、あっという間に師走になりました。プラザに異動になり9ヶ月。時の経つのがこんなにも早いと感じたことはありません。今日は誰に逢えるかなあと心待ちにする毎日です。人との出逢いは、「縁と運と勘」と頑なに信じているわたしです。逢うべくして逢ったなら、このご縁を心地良い関係に紡いでいきたいと思っています。

みなさま、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

(丸山 明美)

NPO法人 牟岐キャリアサポート
〒775-0004 徳島県海部郡牟岐町川長字新光寺 82
E-mail oonishi.hiromasa.1@gmail.com
TEL 090-3780-7625

2019年度生申し込み受付中
精神保健福祉学科
通信課程 一般養成課程・短期養成課程
(1年7ヶ月コース) (9ヶ月コース)
社会福祉学科
通信課程 一般養成課程・短期養成課程
(1年6ヶ月コース) (9ヶ月コース)
TEL.087-823-5566



徳島県医師会は「禁煙」を推進しています!
一般社団法人 徳島県医師会
会長 齋藤 義郎
徳島市幸町3丁目61番地
TEL 088-622-0264

CLE NUP 吉野川をきれいに!
参加団体、募集中。
吉野川交流推進会議
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地
TEL 088-621-2743
FAX 088-621-2758
E-mail office@yoshinogawa.org
http://www.yoshinogawa.org/

平成30年度 災害ボランティア コーディネーター養成講座を開催しました

昨今、全国各地で災害が相次いで発生しており、被災地の方々を支援する災害ボランティア活動への期待が高まっています。このような中、被災者のニーズに対するボランティア活動の調整役を担う災害ボランティアコーディネーターの養成をするため、8月18日・25日・9月8日の3日間、徳島県消防学校において平成30年度災害ボランティアコーディネーター養成講座を開催しました。



高知港湾防災プロジェクト代表 山崎水紀夫氏を講師に迎え、災害ボランティアセンターの役割や被害者の困りごと相談などについて講義や演習を交えて御指導いただき、45名の方に修了証を交付しました。修了者からは「演習を通じて、災害ボランティアセンターを理解できた。」「もっと理解を深めて、そして災害ボランティアとしての活動に繋がりたい。」等の声がありました。



ありがとうございます

預託 ●徳島県阿波牛販売推進協議会様より、県内児童養護施設7ヶ所へ阿波牛肉50kgのご寄贈 ●公益財団法人徳島県生活衛生営業指導センター様より、阿波国慈恵院へそば打ち体験と試食のご提供 ●認定特定非営利活動法人とくしま県民活動プラザ様より、西部圏域の児童養護施設1ヶ所へ小・中学生・高校生のNPO・ボランティア活動体験事業子どもが生き生きと活動するまち「かもこタウン」ご招待 ●四究会様より、県内社会福祉施設・社会福祉協議会10ヶ所へアルミ製介助式車いす各1台のご寄贈 ●損害保険ジャパン日本興亜株式会社様より、千歳苑へ車いすの整備清掃ボランティアのご提供 ●公益財団法人徳島県生活衛生営業指導センター様より、千歳苑へ散髪ボランティアのご提供 ●日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」様より、県内障がい児施設等へクリスマスマスタリティー公演観劇ご招待

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成30年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

保険金額		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	1,400万円
	後遺障害保険金	1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術 保険金	入院中の手術 65,000円	100,000円
	外来の手術	32,500円	50,000円
賠償の補償	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
	葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円(限度額)	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	

年間保険料(1名あたり)		Aプラン	Bプラン
タイプ	基本タイプ	350円	510円
	天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	500円	710円

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険) **送迎サービス補償** (傷害保険) **福祉サービス総合補償** (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引継ぎ先〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区豊が関3丁目3番2号 新豊が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK17-16970 2018.1.9作成)

ふくしと私



特別養護老人ホームねんりん

生活相談員 五軒家

誓

高齢者福祉に携わり20年が過ぎました。その中で、私は「ふくし」のことをどれだけ理解しているのだろうかと考えました。高齢者福祉の分野に関してもまだまだ勉強不足で反省の日々ではありますが、自分の思う「ふくし」は、「相手の気持ちを想像して寄り添う」と感じています。

私には、小学生の頃の忘れられない思い出があります。同居していた祖父に認知症状が見られ始めてからのことです。その症状は祖母が入院してから顕著に表れ始め、何度説明しても「探しに行くと外へ出て行き、一人長い坂を歩いていくことを覚えていません。家族の言葉が伝わらず、時には大声で怒り出したりと、今までの祖父との違いに戸惑い、恐怖心すら抱き、私は祖父に対してだんだんと距離を取り始めました。呆けとか痴呆と言われた頃であり、家族は認知症についての正しい知識はなく、祖父の行動を否定する

ばかりでした。祖父は一人孤独感の中、祖母のいない不安と向き合っていたのだと思うと申し訳ない気持ちで胸が苦しくなります。あの時に祖父の気持ちを理解し寄り添うことができれば...と。

現在、認知症の方が500万人と推測され、将来700万人になるとの報告があります。施設での仕事を通し、認知症状はその方の一部であって、今までのその方にも変わりはないこと、その方の歴史を知り言葉を聴くことでその方に近づくことができると実感出来ました。

そういった経験を、現在、地元の小中学校・中学校の生徒へ伝える機会があります。今年度は、小学生と「認知症について」〇×クイズ形式で共に考え、中学生とは「認知症の方の対応について」日常生活での言葉のかけ方・



介助時注意点等、場面を変えて取り組みました。その際の生徒の表情は真剣で、こちらも嬉しくなりました。また、以前には中学生から体験後の感想文をいただいたことがあり、その内容が想像以上に色んな気持ちを感じてくれていたことを知り大変感激しました。職員の間にもなっています。

私の勤めている、特別養護老人ホームねんりんは、平成9年5月に設立され、やがて22年目を迎えます。利用者・家族・地域の皆様に支えられ、平成28年12月には南



高台移転後の施設建物

海トラフ地震に備えて県下で初の高台移転となり、新施設での安心した生活を継続いただけるように職員一同支援しております。

これからも、「ふくし」について少しでも多く理解できるように人との出会いを大切にしていきたいと思っています。

卓越した価値を提供し、地域・お客さまと成長していく良き「パートナー」をめざします

環境にやさしい銀行を目指し、環境保全活動に取り組んでいます。



地域密着 一等星銀行へ

阿波銀行
<http://www.awabank.co.jp/>



トクベー © 2003 TOKUGIN

徳島銀行
<http://www.tokugin.jp>

徳島県民生委員児童委員協議会

徳島県民生委員児童委員協議会は、民生委員児童委員活動の能率的運営、連絡調整並びに活動強化推進に関する具体的方策を調査研究し、この実践を促進するとともに、委員の資質を向上し、活動体制の基礎を固め、社会福祉の増進を期することを目的として設立されました。主に、社会福祉行政・団体との連絡調整並びに民生委員児童委員活動の強化・推進に関する具体的な方法の収集や検討を行います。現在2,006名(平成30年4月1日現在)の方が県下で活動し、県内各市町村に組織化されています。

平成30年度は、「地域における民生委員・児童委員活動の充実」「生活困窮者自立支援事業への対応」「災害時要援護者支援の推進」「関係団体との連携協力」の4つを重点において、様々な事業に取り組んでおります。



総会及び会長研修会



世帯の訪問・見守り活動

地域住民が安心して生活できるまちづくりをめざして

会長 速水 克彦

徳島県児童養護施設協議会



四国ブロック児童養護施設職員研修会

徳島県児童養護施設協議会は、県内の児童養護施設7施設で構成され、会員施設間の連絡・情報交換や子ども同士の交流などを目的として、様々な事業を展開しています。

本会には7つの専門部会があり、卓球大会等の子どもたちが楽しめる行事の企画・実施や、被虐待児への対応方法やファミリーソーシャルワークに関する情報交換、心理療法等のノウハウのスキルアップ、多職種による困難ケースへの対応方法の検討を行っています。

また、平成31年秋には本県において「第73回全国児童養護施設長研究協議会・徳島大会」の開催を予定しています。全国各地からの参加者とともに児童養護施設の今後のあり方を共有し、全ての子どもたちの命と人権が大切に守られる社会の実現に向けた取り組みへと繋げていきたいと考えています。

本会では、これからも子どもたちが、安心して将来への希望を描ける環境を整備し、自立へ向けた支援を、続けていきたいと考えています。

子どもの権利が大切に守られる施設をめざして

会長 片山 和義

つもに生きる豊かな福祉社会を目指して

徳島県共同募金会

平成30年度テーマ募金にご支援ご協力をお願いします。

徳島県共同募金会では、平成31年1月から3月末にかけて新たな手法による募金活動として、次の5団体がそれぞれ主体的に募金を呼びかける事業(テーマ募金)に取り組んでいます。このテーマ募金は、地域の様々な社会課題の解決に向けて、NPO法人等の活動に必要な資金を募集するものです。皆様からの暖かいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

2020年パラリンピックに太鼓を叩く
障がい者の夢

NPO法人 太鼓の楽校

NPO法人太鼓の楽校は、三宅島芸能同志会と協力し、東京オリンピック・パラリンピックイベントで、健常者・障がいを持つ人たちが三宅太鼓で心一つにして世界へ発信します。皆様の善意のご支援をよろしくお願いいたします。



障がい者のメッセージを伝える
「やまびこの詩」

NPO法人 徳島県ボランティア協議会

「やまびこの詩」は、心身に障がいを持つ人たちから詩を募集し、それらを朗読などで発表しています。だれもがともに生きられる社会を目指す私たちの活動を応援してください。



知的障がいのある方とスポーツで
つながるための活動募金

認定NPO法人 スペシャル オリリンピックス日本・徳島

スペシャルオリリンピックスの使命は、知的障がいのある人たちに継続的にスポーツトレーニングと競技の場を提供することです。この取り組みを拡大するために、ご支援をお願いします。



おなかいっぱい心もいっぱい「気まぐれ子ども食堂」

クリネット徳島

親の多忙や貧困などにより家族と楽しい食卓を囲むことができない、たったひとりで食事をしなければならぬ、食事を用意してもらえない子どもたちが年々増えています。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



生活用品等貸与(給付)事業

徳島県社会福祉協議会 (とくしま・くらし サポートセンター)

生活困窮者に対する生活用品貸与(給付)事業を実施しています。就職活動や経済的な生活を送るために必要な用品を提供します。皆様からも応援よろしくをお願いします。



阪神淡路大震災支援で徳島のボランティア 800人が淡路島で大活躍



日開野 博

とくしまボランティア推進センター運営委員長。徳島県下や中国・四国管内のボランティアの組織活動や福祉のまちづくり活動・地域福祉活動推進アドバイザー等として広く活動中。

平成7年1月17日に阪神淡路大震災が起こり、この年の2月の1か月間で約800人の徳島の市民ボランティアが淡路島の津名郡一宮町(現淡路市)で活躍しました。そこでは、四国四県社協(当時、徳島県社協幹事)が、淡路島災害ボランティアアベースキャンの名称で活動拠点を設置し、徳島から常時50人体制の市民ボランティアが3泊4日のローテーションを組み、一宮町で活動しました。記録では、兵庫県全体で約138万人の災害ボランティアの方々が活動しました。当時、わが国は大災害でのボランティア活動経験が少なく手探り状態での活動でしたが、日本人の相互扶助精神のボランティアマナーは世界中から注目され、その年をわが国では「ボランティア元年」と呼ぶようになりました。

その後、政府は市民参加のボランティア活動が広がることを目的として特定非営利活動促進法(NPO法)を平成10年3月に法制化し、目的型ボランティアグループや団体にNPO法人格を与え、活動環境の条件整備を整えました。

今日では、徳島のボランティア活動も多種多様で創造性に富み、生きがいと交流と繋がりのある地域生活課題解決型の活動へと広がりが見られます。